

こたえ 月のうさぎ

基礎②

月のうさぎ

(インドに伝わる話)

昔、ある山に、うさぎときつねとさるが、なかよくくらしていました。ある日、三びきの前に、つかれはてた一人の老人があらわれ、「何か食べ物をめぐんでくれないか。」とたのみました。さるは木にのぼって、木の実を取ってきました。きつねは川へ行って、魚をとってきました。ところが、うさぎは、あちこち走り回っても、何も見つけることができませんでした。なやんだうさぎは、さるときつねにたき火をしてもらい、老人に言いました。「わたしには、さし上げられる物が何もあります。どうか、わたしを食べてください。」そして、火の中に飛びこんだのです。じつは、老人は、天の神様がすがたをかえたものでした。神様は、うさぎのやさしい心に感動し、そのすがたを月の中にうつして、いつまでも人々が見られるようにしました。月に見えるうさぎのかげには、こんな話が伝えられているのです。

1

さるは、老人のために何を取ってきましたか。

木の实

2

老人の正体は、何でしたか。

ア

天の神様

イ

山の主

ウ

さるのなかま

3

神様は、うさぎのすがたをどこにうつしましたか。

月

の中

4

神様が感動したのは、うさぎの何ですか。

ア

足の速さ

イ

やさしい心

ウ

かしこさ